

わたくし杉本和範は、この度の二十年ぶりの小浜市長選挙におきまして、多くの市民のご支持をいただき、第十代 小浜市長の重責を担わせていただくことになりました。大きな国政政党や多くの団体に対して小さなチームでございましたが、最後まで小浜の市民力を信じ、市民の皆様との対話を重ねたことにより、この選挙を通じて市民の皆様が目線に立ち、市民の小浜に対する強く深い思いを知ることができた実感しております。

小浜市制七十三年、小浜市の民主主義政治をけん引してこられた偉大なる先達の末席に連なるものとして、ご支持いただいた方々、ご支持いただけなかった方々、投票されなかった方々すべての小浜市民が潤う新しい小浜の未来のために一生懸命、この命を懸けて市民の先頭に立ち努める所存でございます。

ノーサイド、オール小浜体制で小浜市制は、ここから「みんなが潤う新しい小浜」へ失敗や変化を恐れず挑戦していかなければなりません。現在、小浜市も多くの地方自治体と同様、人口減少や少子高齢化、一極集中、経済縮小や財政構造の厳しさに直面しております。さらに、小浜市は、若者の流出が起こりやすい社会構造でございます。地方交付税など国からの支出金が先行き不透明な中、これからは自分たちのまちは自分たちで創るチカラ、その核となる自主財源の確保も課題でございます。そして、小浜市という独自の文化を創造してきた小浜らしさ、小浜にしかできないことなどの「おばま」のブランド確立が急務であり、私が先頭に立って早急に取り掛かります。

「小浜は、変わります」。

北陸新幹線小浜京都ルートの日も早い全線開業を望む市民の方も多く、これまで半世紀以上の年月北陸新幹線全線開業へご尽力された方々のその強い想いも引き継ぎながら、敦賀以西の早期着工に向け、県・沿線市町をはじめ、経済界や市民の皆様とともに、要望活動など積極的に展開いたします。

また、「新たな若きリーダーに、新幹線に取り組む熱量に等しい熱意をもって今すぐ小浜市の発展に資する政策を市民と共に実行してほしい」これが市長選挙で示された市民の意志であります。新幹線を万全の体制で迎えるため、まさに「いまから」新しいまちづくりにも取り組んでまいります。

小浜市民の暮らしに資する政策を、一つ一つ実行に移し実践し成果をあげていく、全身全霊を傾け市民の負託にこたえていく事を、この議場におられます市議会議員の皆様とともに、市民の皆様にお誓い申し上げます。

小浜市の経済・産業の発展なしに、市民の生活レベルの向上はなく、多様化する福祉負担を支えていく未来は厳しいものがございます。

小浜市の未来を切り開くことができるのは、政策でございます。そして市民の皆様も参画する政策の実行であります。この議会においても、それぞれの政策議論を大いにかわし、市民のための政策を共に未来へと進めていこうではありませんか。

市民の皆様におかれましても、議会にも関心を持っていただき、「対話」などの機会を通して自分事として、共に未来へと進もうではありませんか。

「新しい政策の循環サイクル」はエンジンでございます。

三つの柱を循環させることが、小浜市に山積する様々な課題に取り組む「すみずみまで潤う」まちづくりの実現につながるのです。

一つ目は、「稼ぐまち」へ。

地方公共団体の財政運営は厳しさを増す中、小浜市の特色あるまちづくりを未来へと推し進め発展させる必要がございます。

そこでまず、自主財源の確保を進めてまいります。

ふるさと納税を四年で十億円、今の四倍まで寄附額を増やします。今年度末に向けても現体制でできることは全て取り掛かり昨年度以上の寄附額を目指してまいります。さらにふるさと納税の寄附文化と投資という視点を持ち、地場産業や地域の企業や商店が発展し市税の増加を生み出し、イノベーションを起こしやすい基盤を創ってまいります。イノベーションとは、既存のものに新たな社会的・経済的な価値を加える事であります。「イノベート小浜」へ。これには、小中高校生、大学生、若手もベテランも、高齢者も貢献ができます。さらに市の発展には市内だけで考えても限界があり、広く連携する必要があります。新たな官民連携にも取り組みます。経営感覚を持ち、「投資が集まるまち」小浜を実現いたします。

二つ目に、「活かすまち」へ。

今、俯瞰してみますと小浜市の知名度や認知度は対外的に低く、観光需要の伸び悩みや地域産業の経済効果を生み出せていません。一方で、先端技術産業の企業なども存在し、民間では独自の取組によってイノベーションを起こしている企業もございます。地方公共団体横並びの現状から、小浜市が発展し未来へとつながなければなりません。

「おばまブランド戦略」を軸に「おばま」という名前を全国の人が聞けばイメージがわくように、小浜市をブランディングしてまいります。小浜が持つ文化的価値は深く、北前船・鯖街道といった往来文化での発展、杉田玄白など多くの偉人も輩出してきた歴史等は、さらに誇れるものであります。

「おばまブランド戦略」は、観光や産業のみならず福祉全般にも関連してまいります。市民が、いきいきと幸せに暮らしているまち。暮らしやすい、住みやすい、暮らしたくなるまちづくりが基本となります。

食のまちづくり計画でお示ししている本市にとってのウェルビーイングなどこれまでの計画などとも整合性をもって進めてまいります。

具体的には、ブランディングにはとても高度な知識や経験が必要とされますので、適切な外部人材の登用や本市出身者や有識者とも連携し、十分なアイデアや構想、何より実効性のある成果が上がるチーム編成を来年度からスタートできるよう進めてまいります。

ブランド効果のデータを分析し評価していく。「おばま」のブランディングは、小浜の価値を対外的に発信する源になり、企業誘致など新たな「投資につなげ」ていきます。

三つ目が、「育むまち」へ。大きな課題として、市民の皆様からも届いております「若者が出て行って帰ってこない」ことがあげられます。人が育ち、みんなで育むまちへ。子育て・教育に対して官民連携して投資していきます。多様な才能を伸ばしていく「子どもが主役の社会」の実現、子育てする親の環境改善や経済的な負担軽減、教育保育などに従事される方々の働く環境改善、経済的負担の軽減。卒業後、大学進学や就職など市外に出ていく時期も小浜とつながるしくみを創ってまいります。

また、地域の農業漁業・産業全般においても次の世代の担い手不足は深刻です。「稼ぐまち」と関連しますが、稼げる産業を実現し、次の世代が暮らしたくなるふるさと小浜の将来を描けるまちづくりに取り組みます。

小浜で暮らす、働く、個性を生かして活躍できる、暮らしたくなる小浜へ。

このように「稼ぐ」「活かす」「育む」三つの政策の柱は、密接に関係しています。そしてこの循環サイクルを回すことがエンジンとなり、インフラ整備や児童・高齢者・障がい者(児)福祉の向上・防災環境の整備・防犯対策・貧困家庭への支援・豊かな環境の保全・芸術文化の機会創出など小浜の地域課題を前向きに解決し発展する土台となります。

最後になりますが、「みんなが潤う新しい小浜」の実現のために、絶対に欠かせない要素が「対話」です。

冒頭で述べましたように、小浜市の未来を切り開くことができるのは、政策でございます。そして市民の皆様も参画する政策の実行であります。そこで、九月から各地区において「対話集会」を開催します。市民の皆様とわたくしが対話し、また市民の皆様同士が対話をする事で、共に知恵を出し地域を活性化するアイデアが生まれます。バリアフリーな対話をベースに、市民がまちづくりに参加している実感があるまちづくりを目指してまいります。

所信の主な政策を述べさせていただきましたが、これまでお示ししてきたすべての政策は、わたくし自身が市内全地区を回り市民の皆様からの「声」をもとにねりあげたものであります。さらに、これからは対話をベースに皆様と共にアイデアを出し合い実行していく所存でございます。小浜市が直面する少子高齢化・次世代の担い手活躍・財源の確保といった難局の大海原の上で、小浜の未来のために今何をなすべきか、団体や政党などの枠を超えて私たちが誇る小浜市のために、共に前に進んでいこうじゃありませんか。

共に知恵を出し合い、お互いを理解し、共に答えを出していく。その過程こそが、小浜らしい、小浜だからこそできる新しい形の発展であり、私たち小浜市民の誇りとなることでしょう。

小浜市民の失敗・変化を恐れず挑戦する姿勢を、その背中を見せていきましょう。皆さんの挑戦に対する責任は、わたくしが全て負う覚悟でございます。新たな小浜市政を、力強く共に前へ進めましょう！ご清聴ありがとうございました。